

[成果情報名] アベマキを使った原木シイタケ栽培の植菌後4年目までの発生傾向

[要約] アベマキ・成形駒の組み合わせでは、アベマキ・木片駒の組み合わせに比べて、発生量が多い。また、1個当たりの重量が大きいものの発生量も多いので優良シイタケ生産に適している。

[キーワード] 原木シイタケ、アベマキ、成形駒

[担当] 農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] 電話 0957-26-3330

[区分] 林業（特用林産）

[分類] 普及

---

### [背景・ねらい]

対馬にはアベマキが多く自生し、シイタケ原木として利用されているが、従来、コナラに比べて8割程度の発生量と言われていた。

成形駒の開発により、アベマキでのシイタケの発生量に改善が見られたことから、対馬の標準植菌密度（成形駒 4000 個/m<sup>3</sup>：木片駒 2000 個/m<sup>3</sup>）におけるしいたけの発生傾向について検討した。

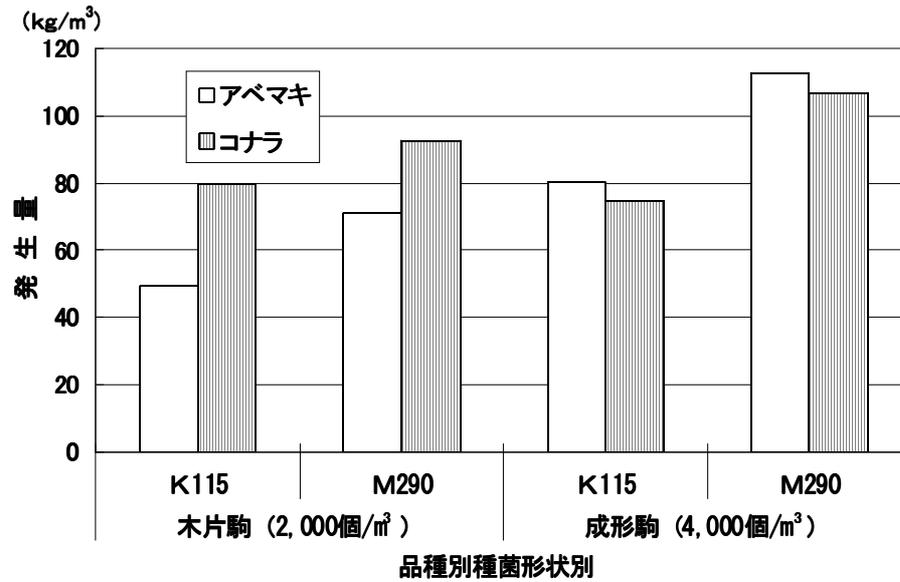
### [成果の内容・特徴]

1. 木片駒では、コナラに比べてアベマキの発生量は、K 1 1 5 で62%、M 2 9 0 で77%である（図1）。
2. アベマキ・成形駒の組み合わせでは、アベマキ・木片駒の組み合わせに比べて、K 1 1 5 で163%、M 2 9 0 で158%の発生量である（図1）。
3. 成形駒において、アベマキとコナラに発生したシイタケを1個当たり生重量別に見ると、アベマキで重量が大きいものの発生量が多く優良シイタケ生産に適している（図2）。

### [成果の活用面・留意点]

- ・原木樹種により植菌種菌形状を選択する上での参考になる。
- ・このデータは、対馬市峰町志多賀での調査によるものである。

[具体的データ]



種菌形状	木片駒 (2,000個/m³)				成形駒 (4,000個/m³)			
	K115		M290		K115		M290	
菌種	アベマキ		コナラ		アベマキ		コナラ	
原木	アベマキ	コナラ	アベマキ	コナラ	アベマキ	コナラ	アベマキ	コナラ
発生量	49.08	79.68	71.23	92.43	80.13	74.84	112.60	106.54
比較	62%	100%	77%	100%	163%		158%	

図1 植菌後4年間の品種別種菌形状別シイタケ発生量(標準接種密度)

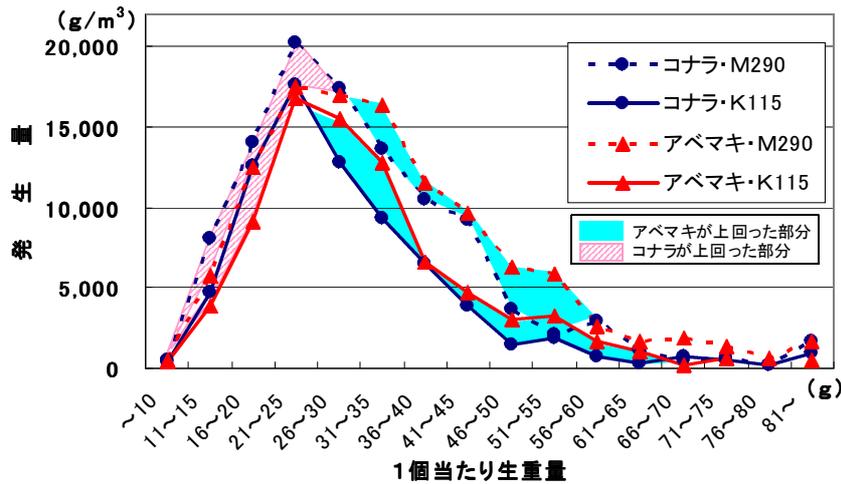


図2 成形駒を使用したときの樹種別・種菌品種別シイタケ発生量 (成形駒・4,000個/m³)

表1 アベマキ原木での成形駒使用による収益性の改善試算

しいたけ区分	収量差(g)		単価(kg)	収益差	
	K115	M290		K115	M290
30g以下の収量増	17,568	19,855	3,000	6,851	7,743
30gを超えるでの収量増	23,803	11,191	4,500	13,925	6,547
生産額の向上				20,776	14,290
種駒コスト	木片駒	成形駒			
	5,600	11,200	<b>-5,600</b>		

※ 乾燥歩留まりは、13%とした。

[その他]

研究課題名：対馬しいたけのブランド確立のためのアベマキによる栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2005～2009年度

研究担当者：田嶋幸一、久林高市、副山浩幸